

講義名	研究演習		
講義コード	45419	授業形態	
担当教員	竹内 信行	開講期・曜日・時限	通年 木曜日 5時限
		オンライン・コード	SEM340

学部・学科	演習分野
経済学科	竹内ゼミナール（経済発展・国際経済・開発経済）

概要説明

概要

世界には、日本のような経済大国から1日2.15ドル未満で暮らす人々がいる発展途上国まで、さまざまな経済状況の国が存在しています。それでは、なぜ、このような差が生じているのでしょうか？そして、経済発展を成し遂げるには何が必要なのでしょう？経済発展論はこうした問いを考える経済学の一分野で、マクロ経済学 / ミクロ経済学 / 国際経済学などのトピックを幅広く含んでいます。本演習では、そうした経済発展論のテキストなどを、発表者の報告をもとにゼミ生全員でじっくり読み進めていきます。

わからないところはゼミのメンバー全員（教員も含む）で教えたり教えられたりしながら、しっかりとした経済学の考え方を身につけていきましょう。座学が中心で派手さはいりませんが、みんなで楽しく勉強などのゼミ活動をし、知識・よい人間関係・よい思い出を築いていきましょう。

各年の計画

【研究演習Ⅰ】
統計学 or 経済学の基本書を輪読します
統計学 or 経済学を通して学生生活や社会で必要となるPCスキル（表計算や文書作成など）を習得します
ゼミ活動を通して学生生活や社会で必要となるPCスキル（表計算や文書作成など）を習得します

【研究演習Ⅱ】
「経済発展論・開発経済学・マクロ経済学・国際経済学」といった経済学のテキストや「時事問題のテキスト」などを輪読します

【卒業研究】
各自、テーマを決めて卒業研究に取り組み、最終的には卒業論文を執筆します
上記はあくまでも予定です。実際に何をやるのかはメンバー全員で相談しながら考えていきましょう

ゼミのすすめ方

毎回、発表者（2-3名程度）に報告をしてもらい、それをもとにみんなで議論を行います

例：輪読の場合
（ゼミ前）あらかじめ全員が各自でテキストを読み、わからなかった箇所などをまとめておきます
（ゼミ当日）発表者がテキストの担当箇所を報告します
発表者やゼミ生がわからなかったところをみんなで考えます
最終的にはゼミ生全員がテキストの内容を理解できることを目指します

過去の輪読テキストの例

- ・ 平口良司、稲葉大 『マクロ経済学 [第3版]：入門の「一歩前」から応用まで。』有斐閣、2023年。
- ・ 黒崎卓、栗田匡相 『ストーリーで学ぶ開発経済学 途上国の暮らしを考える。』有斐閣、2016年。
- ・ ハンス・ロスリングほか 『FACTFULNESS』日経BP、2019年。
- ・ 西郷浩 『初級 統計分析』新世社、2012年。
- ・ 橋本紀子 『Excelで読み取る経済データ分析』新世社、2013年。
- ・ 大竹文雄（編）『こんなに使える経済学 脱貧から出まで』筑摩書房、2008年。
- ・ 日本ニュース時事能力検定協会 『ニュース検定公式テキスト「時事力」発展編』毎日新聞出版。

主な卒業論文のタイトル

- 「キャッシュレス事業の今後」
- 「世界的に見た日本のキャッシュレス普及度の現状と今後の展開」
- 「日本の少子化政策について 出生メカニズムや国際比較を通じた分析」
- 「野球における最適打順の評価」
- 「なぜ若者は結婚を選択しなくなったのか？」
- 「流行の音楽の傾向と経済状況の相関性」
- 「不登校への理解と居場所」
- 「本校学生の労働意欲調査」
- 「eスポーツを活用した地方創生は可能なのか？」
- 「台湾半導体産業への対外投資に関する米中戦略競争下考察 TSMCを例として」
- 「競馬の血統は大事なのか？」
- 「アジア労働市場の性差と経済成長」

教員よりの要望

【一言】
ゼミ活動はメンバー全員（教員も込み）で作りにくいものです。学生生活を楽しく気持ちよく過ごせるよう、よいゼミを作っていきましょう

【こんな方をお待ちしています】
・ 経済発展や国際経済、発展途上国の問題に関心がある方
・ 変に気取らず / 素直に / マジメに / 地道に、ゼミ活動に取り組める方
・ 失敗を過度におそれない方、また他人の失敗に寛容な方
・ 相手の考えを理解・尊重しながら、ともに議論や意見交換、行動ができる or しようと努力できる方

選考方法

「思ったたゼミと違う！」というミスマッチが学生と教員の双方にとって最大の不幸です。そうした事態を避けるため、以下の手順で選考を行います

1. ゼミの個別ガイダンスに必ず出席してください。事前に教員と一度も話したことがない方が応募した場合は、入ゼミをお断りする場合があります
2. その上で「このゼミならがんばれそうだ」と感じた方は、ぜひ申込書をしっかりと記入し申し込んでください
3. 申込書、成績および面接により選考します

評価方法

出席状況、演習での発表・参加姿勢、提出課題から総合的に評価します。
また、発表担当時の無断欠席など、ゼミメンバーの迷惑になる行動や「あまりに」非常識な行動に対しては厳しい判断をします（そうしたことが起きないことを切に願います）。

教員英字氏名	研究室
TAKEUCHI, Nobuyuki	研究棟 11 2606

最終学歴

神戸大学大学院国際協力研究科博士課程後期課程 修了

学位

博士（経済学）

主な研究活動・社会活動・研究業績

【主な研究活動】
経済発展論・国際経済学に関する研究を行っています

- 【主な研究業績】
- ・ 「工業化と政府の役割：小国開放経済のケース」『国際協力論集』18(3)、81-105 (2011)。
 - ・ 「Reconsidering the Effect of Economic Development on Urban Unemployment under Nonhomothetic Preferences.」Economics Bulletin, 35(1), 313-321 (2015)。
 - ・ 「要素蓄積、技術進歩と都市失業 Harris-Todaroモデルによる分析」『国際協力論集』24(2)、39-75 (2017)。
 - ・ 「Skill Diversity と貿易パターン: Grossman and Maggi (2000) の命題4に関する一考察」『国民経済雑誌』223(5)、33-45 (2021) (共著)。

趣味・特技

【趣味】
おしゃべりすること / のんびり一日を過ごすこと

【特技】
何か身に着けたいとは思っていますが、現在のところ特にありません（何かおススメがあれば教えてください）

所属

経済学部

所属学会

日本国際経済学会、国際開発学会

専門分野

経済発展論、国際経済学

担当科目

マクロ経済学、経済数学、国際経済論、基礎能力（新聞を読む）

備考

実務経験の有無及び活用